

米欧亜回覧

第43号

発行

特定非営利活動法人

米欧亜回覧の会

編集 総務部会

DVD「岩倉使節団の米欧回覧」

七月、慶應義塾大学出版会から発売！

四月の全体例会で試写を行った本会企画のDVD「岩倉使節団の米欧回覧」は、七月初旬には完成予定で七月末までには慶應義塾大学出版会から発売になる予定である。

内容はDVD二巻セットで、価格は一万八千円(消費税こみ一万八千九百円)、会員は特別割引価格(税込み一万五千円)になる見込み。

DVDは九章からなる本体(二時間四十五分)と附録の肖像アルバム(岩倉使節団とその周辺の人々)から成っており、その本編のチャプター構成は左の通りである。

- 一 岩倉使節団の出発
- 二 新しい国アメリカ、大陸横断鉄道の旅
- 三 ワシントン滞在と東部回覧
- 四 最盛期の大英帝国を往く
- 五 英国の光と影
- 六 麗都パリとフランスの底力
- 七 新興ドイツと大國ロシア、そして小國の知恵

八 西洋文明の源流イタリア、そしてアルプスの国へ

九 中東・アジアの植民地帯回覧、そして帰国

四月の全体例会は、NPO総会とDVD試写会
第四十回の全体例会は、四月二十八日(土)、国際文化会館で開催され、NPOとして総会議事とDVD「岩倉使節団の米欧回覧」の試写を行った。総会では、前年度の事業報告と決算報告ならびに新年度の活動計画の報告があった。(詳細は二)



全体例会
(4月28日国際文化会館)

四頁)。また、試写会の後には同会館の別室で懇親パーティーが催され、三十名余が集まって盛会だった。

七月の全体例会は二十九日(土)

ポスト小泉と岩倉使節団」 橋本五郎氏の講演

七月の全体例会は二十九日(土)午後一時から四時半まで、日本プレスセンターの十階ホールで開催する。今回は、読売新聞の編集委員で日本テレビのコメンテーターでもある橋本五郎氏を講師に迎え、「ポスト小泉と岩倉使節団」についての講演を聞く。橋本氏は現代語訳が出版された際に読売新聞の「五郎の政治ワールド」欄で「維新の使命感を再び」という記事を執筆されており、長年の政治記者としてのキャリアから明快で興味あるお話が拝聴できるものと期待される。

秋の国際シンポジウムに 協賛・後援」決まる

秋に開催予定の当会設立満十周年記念の国際シンポジウムについて、このたび国際交流基金と東芝国際交流財団から資金援助をいただけることが決まった。金額はそれぞれに百四十二万円と百万円で、現在二百四十万円である。なお他の財団にも目下申請中であり、その回答が待たれる。
また、新聞社では読売新聞社が後援団体に決まった。

六月八日の第九十七回「実記を読む会」で、会員の小林富士雄氏(大日本山林会会長)が、貴重な資料を基に興味ある報告をされた。その中にベルリンにおける木戸と大久保の知られざるエピソードがあり、感動的な後日談もあったので紹介したい。それは当時ドイツに滞在していた留学生、松野礪の話である。松野は長州の出身で幕末脱藩して志士として活動し維新後はドイツ語を学んでいたのだが、その関係で明治三年ドイツに留学する北白川宮に随行することになった。そしてベルリンでは、最初メジャーな「国家経済学」を学ぶつもりだったのが、青木周蔵のすすめもあって当時はマイナーに見られていた林学を敢えて志し勉強していたのである。

ベルリンにおける木戸と大久保 —留学生との出会い

泉 三郎

るつたらしい。同席の大久保もそれを聞いて「案(机)をたたいて大いに悦んだ」という。大久保は殖産興業の上からもその重要性を認めて大いに激励したのだろう。松野は卑賤な学とみられていたのに、トップリーダーの二人の言葉に大いに力を得て以後専心懸命に勉学に励むことになる。

岩倉使節団には、当時各国に派遣されていた留学生が玉石混淆なので実態調査の上整理する仕事もあったのだが、木戸は留学生のリストにあった「山林学」に興味をもち松野を呼んで話を聞く。松野はここぞとばかり林学の必要性を説いて熱弁をふる

いも用意して上野精養軒での結婚披露にも出席している。この挿話には木戸と大久保のそれぞれの持ち味が表れており心を打つ。これに似た話は同じドイツ留学生で近代毛織物製造の祖となる井上省三にもあり、おそらく他の留学生にもいろいろあったに違いない。要路にあるリーダーのもって範とすべき話である。

そして明治八年に帰国すると、大久保は待つてましたとばかり内務省の地理寮に職を用意して任せ、松野はその後幾多の苦難にもめげず日本の山林学とその行政の基礎を築くことになる。また、木戸は個人的に松野のフィアンセ・クララが単身来日したのを親身になつて世話をし、住ま

第四十回全体例会 NPO総会と DVD試写会

平成十八年度、第一回例会は四月二十二日(土)十三時より国際文化会館講堂において会員六十八名の出席(欠席通知六十名)により開催された。今回例会はNPO法人の総会をかねているため、直ちに総会の議事に入り、まず、各代会幹事より、別紙の「二〇〇五年活動報告」に沿って具体的な活動内容の説明があったが、十七年度は、従来の各代会活動に加え、青年部会活動の本格化、国際部会の活動開始、メルマガの創刊など多面的な事業展開が加わり、一段と充実した活動報告となった。

また、今回は関西支部の難波氏が特別参加され、支部の活動状況(会員二十名、例会年四回)について、読む会とビデオによる研究会が中心であるが、近現代史研究会の性格が強いこと、会員の高齢化が進んでいることなど具体的な報告があった。

一方、総務部会からは、三月末会員数は百八十七名、うち今年度新入会員十七名ということで、二〇〇五年会員数は若干減少傾向にあるとの報告があった。今後、会員数を安定した水準に保ち、また、さらに増加に

平成17年度・活動報告(平成17年4月～平成18年3月)

	全体例会	実記・英訳読む会	現未来部会	歴史部会	青年部会	総務部会・歴史の旅・テイクアウト・その他	関西支部
2005 4月	・36回例会(4/23) 「和魂漢才から和魂洋才へ 久米邦武の知的背景を探る」 杉谷昭氏	・実記読む会(4/7) イギリス ニューカッスル ★英訳読む会 (4/21)				★長州歴史ツアー (4/13～15)	・例会(4/28) 実記の99ページ より輪読
5月		・実記読む会(5/12) 石炭の話 ★英訳読む会 (5/19)			・「米欧回覧実記」 現代語訳読む会 (5/13)	・ニュース39号 (5/31)	
6月		・実記読む会(6/2) ヨーロッパ・アメリカ気候と農業 ★英訳読む会 (6/16)	・「憲法問題を考える」 その1(6/7)	「鈴木貴太郎内閣の 終戦処理」 永富邦雄氏(6/23)	★「木戸孝允と長州の 人間教育」石川直義氏 (6/10)	・メールマガジン 創刊号 (6/30)	
7月	・37回例会(7/16) 「日本の近代・百五十年」 を語る 五百旗頭真氏	・実記読む会(7/7) イギリス セフィールドの記 ★英訳読む会 (7/14)		全体例会担当(7/16)	・「米欧回覧実記」 現代語訳読む会 (7/1)	・メールマガジン 2号 (7/27)	・例会(7/26) 大陸横断鉄道 ネバタ～シカゴ
8月					★夏合宿(8/6) ★韓国放送にKBS取材 (8/24) ★「現代日本の問題点」 明治の歴史から何を 学ぶか	・ニュース40号 (8/31) ・メールマガジン 3号 (8/28)	
9月		・実記読む会(9/8) 第88回記念 現代語訳増版祝賀会 ★英訳読む会 (9/15)	・「憲法問題を考える」 その2(9/21)	「秀吉と利休のイメージ」 明治・大正・昭和における 変遷 田中仙堂氏(9/21)	・「米欧回覧実記」 現代語訳読む会(9/2)	・メールマガジン 4号 (9/30)	
10月	・38回例会(10/29) 「憲法改正イエスカノーカ」 会員有志の発表と討論	・実記読む会(10/6) ヨーロッパの地理・運河総論 ★英訳読む会 (10/20)	・全体例会担当 (10/29)		★セミナー 「高島学校から見る 維新期の横浜の教育」 米山光儀氏	・メールマガジン 5号 (10/31)	・例会(10/18) シカゴを出発して ワシントンへ
11月		・実記読む会(11/10) ヨーロッパ工業総論 ★英訳読む会 (11/17)			・「米欧回覧実記」 現代語訳読む会(11/4)	・メールマガジン 6号 (11/30)	
12月		・実記読む会(12/8) パリ府の記 ★英訳読む会 (12/15)			・「米欧回覧実記」 現代語訳読む会(12/2)	・ニュース41号 (12/25)	
2006 1月	・39回例会(1/20) 「新年懇親例会」 テーマ「ベルギー」 日白交流四百年	・実記読む会(1/19) ベルギー国総論 ★英訳読む会(1/26)	・「私の目指す日本の 国家像」石川直義氏 (1/31)		・読書会(1/6) 現代語訳読む会	・メールマガジン 7号 (1/1) ★韓国放送特別番組 「明治の遺産」鑑賞会 (1/10)	・例会(1/20) 新年懇親会
2月		・実記読む会(2/9) ベルギー国の記上・下 ★英訳読む会(2/23)			★セミナー(2/14) 「戦後日本—経済国家 の栄光と挫折」 五百旗頭真氏	・メールマガジン 8号 (2/1)	
3月		・実記読む会(3/9) 第94回 オランダ国総論 ★英訳読む会 第36回 (3/23)			・「米欧回覧実記」 現代語訳読む会 (3/10)	・メールマガジン 9号 (3/2) ★国際部会(第1回) (3/3) ★新入会員歓迎会 (3/27)	



向けて努力すべく、会員各位の協力、支援が改めて要請され、事務局の充実とともに、今後の課題として示された。

続いて、平成十七年度会計収支計算書、同貸借対照表、財産目録、および平成十八年度事業計画、会計収支予算書の審議に移り、総務部会幹事より説明があった後、満場一致で承認された。十七年度収支は、DVD制作費(四百六十六万円)があったものの、これは東京倶楽部よりの助成金および会員、一般よりの賛助金で同額の資金が充当された。また、講演会、セミ

右) 第40回全体例会
左) 関西支部難波氏

平成17年度 特定非営利活動にかかる事業 会計収支計算書

平成17年4月1日から
平成18年3月31日まで
特定非営利活動法人
米欧亜回覧の会

科 目	金 額	
I 収入の部		
1 会費・入金収入		
会費収入	938,402	
入金収入	85,000	1,023,402
2 事業収入		
講演会事業収入	1,237,000	
セミナーの会事業収入	149,500	1,386,500
3 寄付金収入		
特別賛助金		4,460,000
4 その他収入		
書籍・資料販売手数料	446,350	
長州旅行収支差額	34,433	
雑収入	26,262	507,045
当期収入合計 (A)		7,576,947
II 支出の部		
1 事業費		
(1) 講演会事業費	1,166,153	
(2) セミナーの会事業費	183,120	
(3) ニュース(会報)関連事業費		
印刷費	198,090	
郵送費	136,360	
(4) 出版物制作関連事業費		
「米欧回覧実記」現代語訳	182,742	
(5) DVD制作事業費	4,660,000	6,526,465
2 管理費		
電話・通信費	348,275	
会議費	168,949	
事務費	664,518	1,181,742
当期支出合計 (B)		7,708,207
当期収支差額 (A) - (B)		△131,260
前期繰越収支差額 (C)		1,041,366
次期繰越収支差額 (A) - (B) + (C)		910,106

(単位：円)

平成17年度 特定非営利活動にかかる事業 会計貸借対照表

平成18年3月31日現在
特定非営利活動法人
米欧亜回覧の会

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金・預金	910,106	
流動資産合計		910,106
2 固定資産		
固定資産合計		0
資産合計		910,106
II 負債の部		
1 流動負債		
流動負債合計		0
2 固定負債		
固定負債合計		0
負債合計		0
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		1,041,366
当期正味財産増減額		△131,260
正味財産合計		910,106
負債及び正味財産合計		910,106

(単位：円)



例会でDVD製作の報告をする足立光正氏

(文責) 山田哲司
(写真) 橋本吉信

ナー部門も収支相償う結果となつてゐる。結局、年度としては管理費の増などによる十三万一千円の赤字になり、前期よりの繰越金百四万一千円により補填する形となつた。なお、十八年度予算については、秋に開催予定の国際シンポジウムが最大の課題であるが、現在資金集めなど鋭意努力中である。詳細は別添資料のとおりで、ご出席になれなかつた会員の方々も、改めて確認いただき、質問又は意見があれば、事務局までお寄せください。

総会終了後、DVD「岩倉使節団の米欧回覧」試写が行なわれ、限られた予算の中奮闘する製作担当の足立光正氏より説明があつた。それによると、当初計画百二十分が内容の充実のため百六十分をこえたこと、映像も新しく追加して五百枚をこえたこと、そして本日の試写で指摘された問題点には極力応えていきたいとの表明があつた。

平成18年度・事業計画書 (平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

特定非営利活動法人 米欧亜回覧の会

1 事業実施の方針

平成18年度は、事業の中心を講演会、部会、歴史ツアー、および国際シンポジウムの4本柱とする。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

		実施予定日時	実施予定場所	従事者の予定人数	受益対象者の範囲及び予定人数	支出見込み額(千円)
講演会	講演会年3回 交流・交歓会年1回	4月、7月、10月、1月	日本プレスセンター	各回8名	一般市民 講演会60名 交流会80名	900 600
部会	研究及び啓発活動	部会により、 毎月又は年4回	国際文化会館他	各部会3名	一般市民 各回25名	600
歴史ツアーの会	鹿児島歴史ツアー	5月	鹿児島市他	5名	一般市民 20名	2000
国際シンポジウム	セミナー3回、映写会1回 に加えて、それらを総合した国際シンポジウムを開催する	11月23~25日	国際文化会館 学術総合センター	15名	一般市民 延500名	5530
会報(ニュース)	会の活動に関する会報の発行により研究・啓発を行う	季刊(年4回)		3名	一般市民 各号800部	350

注) 部会とは、「実記」を読む会、英文「実記」を読む会、歴史部会、現未来部会、国際部会、青年部会、総務部会の7部会である。

平成18年度・予算書

平成18年度 特定非営利活動にかかる事業 会計収支予算書

平成18年4月1日から
平成19年3月31日まで

特定非営利活動法人
米欧亜回覧の会

(単位:円)

科 目	金 額	
I 収入の部		
1 会費・入会金収入		
入会金収入	100,000	
会費収入	1,000,000	1,100,000
2 事業収入		
講演会事業収入	1,500,000	
部会事業収入	600,000	
歴史ツアーの会事業収入	2,000,000	
国際シンポジウム事業収入	2,530,000	6,630,000
3 寄付金収入		
賛助金	3,000,000	3,000,000
当期収入合計(A)		10,730,000
収入合計(A)		10,730,000
II 支出の部		
1 事業費		
講演会事業費	1,260,000	
部会事業費	600,000	
歴史ツアー事業費	2,000,000	
国際シンポジウム事業費	5,530,000	9,390,000
2 ニュース(会報)関連費		
印刷費	200,000	
郵送費	150,000	350,000
3 事務費		
電話通信費	350,000	
会議費	170,000	
事務費	450,000	970,000
当期支出合計(B)		10,710,000
当期収支差額(A)-(B)		20,000
前期繰越収支差額(C)		910,106
次期繰越収支差額(A)-(B)+(C)		930,106

薩摩歴史ツアー

―島津大名家八百年の足跡を辿る―

五月十八日から二十日の二泊三日で、薩摩歴史紀行が開催されました。今回の参加者は東京から十八名、名古屋から三名、大阪より一名の合計二十二名でした。男女それぞれ十一名の誠に均整のとれたメンバー構成でした。台風一号が九州地方に接近するという雲行きのあやしい中で、先行きの不安を覚えながら鹿児島空港で合流して旅は始まりました。参加者の中に、我こそ晴れ男、晴れ女と豪語される方が居られたため、台風も遠慮したようで、唯一度だけ、一時間ばかり雨に降られただけで恙なく旅を続けられたのは幸いでした。

先ずは美山にある沈壽官・薩摩焼工房の見学。司馬遼太郎の「故郷忘じがたく候」の主人公でもある、十四代沈壽官に迎えられる美術館に飾られた名品と、朝鮮から渡ってきた陶工たちの技術が薩摩焼、特に白薩摩に定着した歴史を伺った。伊集院で昼食後、鹿児島市内に入り、夕方までに大久保利通の銅像、維新群臣の像、西郷隆盛の銅像、維新ふるさと館、西郷隆盛誕生地の地、城山展望台、南洲墓地、西郷南洲顕彰館、西郷終焉の地などを回覧する。鹿児島繁華街・天文館のホテル・ザビエル450に投宿、料亭熊襲亭で薩摩料理の夕食を取りな



濱崎太平次の銅像前で

がら交歓し、ホテルへ戻って、尚古集成館の村田省三館長の『薩摩藩と日本の近代化』と題する講演を聴いた。薩摩藩が幕末の雄藩として活躍できたのは、琉球支配と倭寇など海との係わりが、外国との交易と外国情報の手を容易にし、いち早く国防や日本としての近代化の必要性を痛感出来る位置にあったからだ、海からの視点を指摘されたのは、今回の旅で薩摩を理解する良い手がかりを最初に与えられた。

二日目は、鶴丸城址にある黎明館・鹿児島県歴史センター、仙巖園(磯庭園)、尚古集成館、薩摩切子工場、異人館を訪れた後、鹿児島を後にして、一路南薩摩の指宿に向かう。指宿港で薩摩の豪商・濱崎太平次の銅像の前で記念写真を撮る。薩摩が維新で活躍できた財力の秘密は、倭寇による密貿易と濱崎など豪商の力を抜きにして語れない。この日は指宿いわさきホテルに宿泊し、夕食後、再び坊津歴史資料館学芸員の橋口亘氏を講師に、坊津・山川港など薩摩の港が果たした歴史的な意味を教えられた。

最終日は、山川港を経て、開聞岳を見ながら本州最南端沿いに、池田湖を周遊、枕崎を通過して坊津の歴史資料センターを訪問した。その後、知覧の茶畑を左右に見ながら、知覧の武家屋敷を散策し、昼食後知覧特攻平和会館で、特攻に出て行った若い兵士たちの悲しい遺品やエピソードに見入り、平和のありがたさを痛感しつつ、今回の旅を終えた。

今は芋焼酎とさつま揚げ、薩摩汁、知覧茶程度しか思い浮かばない薩摩が幕末に雄藩として歴史に華々しく登場し、明治維新を実現する原動力となった背景には、源頼朝の子といわれる島津家の祖忠久以来八百年続いた、唯一の大名家であった武家の伝統があり、武士の比率が四十五%と異常に高いこと、代々名君を生む素地があったこと、その島津を支えた家臣団や豪商、更には琉球や倭寇を通しての東南アジアや中国との密貿易による蓄財、外国のニュースが入りやすい環境、郷中という独特の若者養成教育の存在等があった。

山川港や坊津は密貿易の拠点であり、遣唐使が最後に寄った日本の港でもあり、鑑真は坊津の近くの港で上陸している。朱印状が最初に使われたのも島津家である。集成館事業は製鉄、造船、造砲、紡績、ガラス、電信、出版、化学、食品、医療と多方面にわたり、西洋列強の外圧を直接感じて、その強大な軍事力に脅威を抱いた、島津斉彬が、一刻も早日本を豊かにしなければとはじめた事業である。だからこそ、アヘン戦争で危機感を抱き、反射炉を建設、

日本で最初の西洋式帆船を建造、薩英戦争のあと、英国に大勢の留学生を派遣、幕府と競って万博に出品したのも、一貫した危機感からである。大久保利通が、米欧回覧の後、富国強兵に鋭意努力したのもこの島津魂と無縁ではあるまい。色々な意味で、得ることの多い旅であった。来年は佐賀か、会津かどちらかを考えたい。

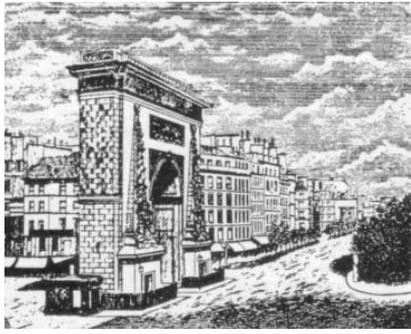
(文責) 小野博正



知覧武家屋敷



14代沈壽官氏が展示品を説明



ブルヴァール大街の旧城門 (実記)

第四十二巻パリ市の記(一)で、浅生さんは、現在のパリ市は、ナポレオン三世の構想とオ

実記を読む会報告

連絡 桑名 正行

Tel&Fax 03-3642-9570

mkuwana@nifty.com



第九十六回 五月十日、出席者十六名。ゲストの松井先生より九十二年パリ実記追体験旅行時の現地写真数十葉ご披露あり、往時、当今の両パリを瞬時に拝見させていた

スマン・セーヌ県知事の豪腕実行力の結果であるとし、実記の記述を豊富な資料(オスマンと大パリ、オスマンの建物)で裏づける。音読は四ヶ所にわたる。パリ市の城壁の外への膨張、その保安機能と徴税機能を説明。締めくくりとして「詩魂こそ文化の芯」「もつと誇りと自信を」と主張する芳賀徹先生の最近の一文を添える。

第九十七回

六月八日、出席者十四名。小野さんより第五十五巻プロイス国総説の解説。朗読約二頁。プロイセンの①略歴、②版図、③主要産業(工業はザクセン、アルザス等、兵器はエッセン市クルップ等)の概要を説明。①で、プロイセン興隆史... いわゆる「ドイツ統一戦争」とは、まず一八六六年、普墺戦争でプロイセンがオーストリアに勝ち、結果北ドイツ連邦(プロイセンなど二十二カ国)、南ドイツ連邦(四カ国)、オーストリア帝国に分裂、ついで一八七一年、普仏戦争に勝利し、プロイセン王国ウイルヘルム一世は南北ドイツを統一、ドイツ連邦の帝位につく(しかもベルサイユ宮殿において)、この点を想起させる。

英訳実記を読む会報告

連絡 岩崎洋三

Tel & Fax 03-3488-0532

zaa96087@oak.zero.ad.jp



ルップ工場群を熱心に見学。兵器の重要性、クルップの功績、一八六六年、普墺戦争の勝因にふれる。されど久米は最後に「普国人民の営業は主に農牧にあり」とプロイセン農業を賞揚した点を指摘。
<解説>「中部ヨーロッパの森林の歴史」では、森林と農業はトレッドオフの関係にあると約言される。庄巻は<論考>「岩倉使節団と日本の近代林政」で、大久保利通は帰朝後「殖産興業建議書」を提出、林政は農工商、警察、海運にならんで重要施策とされた経緯を詳述。林業推進に係わる人物群像は大久保の他、木戸、青木周蔵、松野礪(ドイツ山林学校専攻)等多彩。小林さんは春秋の筆法を用いて「日本の近代林政の源流は岩倉使節団のベルリン滞在を嚆矢とするということになるのか」とされる。斯界泰斗の名講釈だった。

(文) 桑名正行

四月例会(第三十七回)

四月十三日 (木) 青山学院 女子短大で英訳実記を教えている加納先生や泉代表を含め十人が集まり、議論が白

熱し予定を三十分も超過してしまつた。

第二巻イギリス篇の二十七章の半ばから終わりまでクルーの製鉄工場見学記(百四十五〜百五十二頁)、および第二十八章のセント・ヘレンズのガラス工場見学記(百五十四〜百五十七頁)を朗読した。

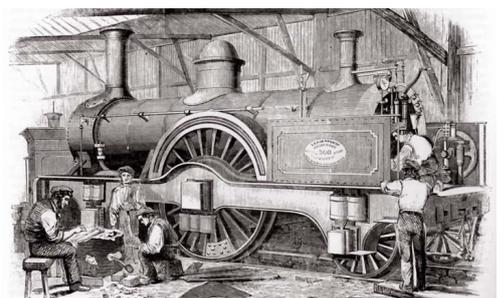
ベッセマー転炉による錬鉄製造やレール、車輪、機関車の加工組立工程、ならびにガラスの種類、原料、板ガラス製造行程などについての久米の詳細な観察記録に改めて感心させられながら読み進んだ。また当時英国製の鉄道車両が、多くのヨーロッパ諸国で使用され、インド、中国、オーストラリアまで輸出されていたとのことである。

製鉄については理系の小林さん、旧八幡製鉄時代に製鉄をマスターされた岡部さん、ガラス工場については三原さんが丹念に報告・コメントしたが、全員が納得するまで時間がかかった次第。久米も苦勞したでしょうが、実記を読むのも大変ですね。

五月例会(第三十八回)

五月二十五日(木)、出席者は九名。

第二巻イギリス篇の二十八章マンチェスターの記録一から十ページ(百五十七頁〜百六十七頁)を読み通した。板ガラス・鏡製造工場、綿紡績工場、



汽車製造

DVD「岩倉使節団の米欧回覧」の1場面

ウィットワースの製鋼・鋳造所、大砲製造工場の見学記で、工程が詳細に描写されている。精緻な久米の文章が平明な英語に訳されているが、文章だけでは工程の理解が難しかった。永島さんがガラス工場部分を、岡部さんが綿紡工場、製鉄所部分を報告し、ガラス、綿糸、鉄の製法とその歴史にはずいぶん詳しくなった。

本日もコルカット先生に、英国編の訳者ヒリー先生に代わってご意見をいただけただけのは幸いだった。「The raw cotton waiting to be spun was stored on the ninth floor.」など原著にない記述が英訳に付加されているのは、訳者のヒリー先生が偶々工場の近くにお住まいで、丹念に現地調査された成果であろうとのコメントに納得した次第。

(文) 岩崎洋三

国際部会報告

連絡 井出 亜夫



ide@gsb.nihon-u.ac.jp

■第二回部会

B R I C S という用語が市民権を有しつつあるが、インドの覚醒には、多くの人が注目している。

古来わが国では、唐天竺と言われてきたが、インドとのかわり、情報に

今回は、ラビンダー・マリツク氏(長年国連に関わり、国連大学創設以来日本在住)より、

東洋日本の可能性に多くの期待を寄せつつもナショナリズムに走る日本批判等が紹介される

一方、在日中のコールカッタ氏(プリンストン大学教授)は、

■第三回国際部会案内

フランス大使館イルマン・ジュール氏より、「フランス革命人権宣言と明治維新五か条のご誓文」について、比較コメントをお願いすることにしている。

日時 七月十三日(木) 午後六時三十分〜九時

場所 地球産業文化研究所 港区虎ノ門二丁目 商船三井ビル三階

当日は、フランス革命記念日の前日に当たり、これを素材に何故五箇条のご誓文は人権宣言のような世界的アピール

現未来部会報告

連絡 塚本 弘



Tel 03-3211-2765 Fax 03-3213-1371

hiroshi_tsukamoto@jetro.go.jp

五月十七日 六本木JETRO五階会議室に於いて、午後六時半より九時過ぎまで開催。十六名が出席した。

◆道徳教育、歴史教育、家庭教育、学校教育等々、教育問題が最重要である。

関西支部報告

連絡 北村 彰一



shou1@f7.dion.ne.jp

■例会報告

四月十八日、十一名が参加。使節団一行が大変ショックを受けたのは、アメリカの工業や農業などの産業力という彼我の差ではなく、実は社会習慣の差であった。特に、

米国女性の地位や社会における取り扱われ方への会員の意見として、女性が少なかったから大切にされたのだといった説や、フランスでは婦人がサロンを主催するほど活躍していたから、米国婦人はまだ大人しいという発言もあった。

NHK「世界から見た日本」のビデオを観る。最恵国待遇の条項を指摘した駐日ドイツ公使のプラントが、北海道を占領してドイツ移民を移入させドイツの植民地化する案を本

次回(文) 井出 亜夫

(文) 井出 亜夫

(文) 小田仁彦

(文) 難波 康熙

特定非営利活動法人
「米欧亜回覧の会」ご案内

趣旨 この会は「岩倉使節団」に興味をもち、その記録である「米欧回覧実記」に関心を抱く人々の集まりです。
この大いなる旅と「実記」はまさに「温故知新」の宝庫と言えましょう。
この素材を媒体にして歴史をふりかえり現代の直面する諸問題についても自由に語りあおうという会です。

会員 上の趣旨に賛同する人なら誰でも入会できます。

例会 年に4回くらい全体例会をもちます。

部会 テーマ別に読む会、歴史、現未来、総務部会等があり、映像サロン・勉強会・旅行会・研究会・シンポジウムなどを行っています。

機関紙 年に4回程度機関紙を発行し活動報告や会員の意見発表、情報交換の媒体とします。

役員 理事長(泉三郎)他理事および監事で構成、会員の中から幹事十数名を選び、運営を担当します。

会費 年会費5,000円とし、主として通信費及び機関紙代に充当します。例会・部会・講演会などについては、その都度の会費とします。なお、遠隔地居住者、学生、仮入会希望者には準会員(年会費3,000円)の特典もあります。

事務局 「イズミ・オフィス」に置きます。
〒192-0063 八王子市元横山町1-14-16
E-mail:info@iwakura-mission.gr.jp
TEL:042-646-3310
FAX:042-645-8700

入会申込

入会申込書は事務局にあります。新規入会に際しては入会金5,000円を頂きます。

なお年会費などのお支払は郵便振込が便利です。

00180-2-580729 特定非営利活動法人米欧亜回覧の会

<催し案内>

2006年7月～9月の予定です

☆7月全体例会

日時：7月29日(土) 13:00～16:30
場所：日本プレスセンター十階ホール(内幸町)
内容：会務報告 13:00～14:00
講演：「ポスト小泉と岩倉使節団」14:15～16:30
講師：橋本五郎氏(読売新聞編集委員)
懇親パーティ 18:00～20:00
会費：3000円。懇親パーティ(新橋亭5000円)

☆実記を読む会

日時：7月6日(木) 18:30～21:00
9月7日(木) 18:30～21:00
場所：国際文化会館E室
会費：1000円(夕食等はありません)

☆英訳実記を読む会

日時：7月20日(木) 18:30～21:00
場所：(財)統計研究会会議室
港区新橋1-18-16 日本生命ビル7階

☆歴史部会

◆日本のアイデンティティシリーズ
日時：7月20日(木) 18:00～21:00
テーマ：新渡戸稲造と土魂(石川直義氏)
場所：国際文化会館Dルーム
会費：1000円

☆国際部会

日時：7月13日(木) 18:30～21:00
テーマ：フランス人権宣言と明治維新五ヶ条のご誓文
講演：イルマン・ジュール氏(駐日仏大使館)
場所：地球産業文化研究所(03-5563-8800)

☆青年部会

◆現代語を読む会(ロンドン市の記)
日時：7月7日(金) 20:00～22:00
場所：(財)統計研究会会議室

☆関西支部例会

日時：7月26日(水)
場所：大阪凌霜クラブ会議室

.....ホームページのご案内.....

◇米欧回覧ニュース第1号からのバックナンバー など

*皆様のご意見をお聞かせ下さい

<http://www.iwakura-mission.jp>



編集後記

◇全体例会や各部会の日程が多く、催し案内(八頁)の欄が満杯となりました。四月全体例会において会員数やや減少しているとの報告されましたが、活動報告(二頁)の項目も着実に増えていて、活動の沈滞がその原因でないことは明らかです。

◇DVD試写のアンケートでは「断片的になって人物のイメージが、時系列的に理解できる臨場感があった。また、当時の使節団の驚きと感動が伝わってきた」など高い評価が多く、昨年の現代語訳出版前の状況を思い出し、期待感が高まります。

格段に鮮明になった二時間四十五分の映像を、パソコンでも手軽に見ることができ、DVDという最強のメディアを手にするようになりました。

足立さん、泉さんの負担は甚大だったと思いますが、高い完成度の陰に「全員参加でよりよいものを作る」という会員の真摯な姿勢があり、ます。完成版では、アンケートに書かれていた「耳で聞いて同音異義の他の言葉と誤解されるおそれがある」という箇所もテロップの工夫などで修正されて分かりやすくなっています。